

市長年頭記者会見 概要

- 日時：令和2年1月8日（水） 午前11時00分から午前11時58分まで
- 場所：市庁舎3階庁議室
- 相手方出席者：神奈川新聞社、テレビ神奈川、日本経済新聞社、タウンニュース社
- 市側出席者：市長 桐ヶ谷 覚、副市長 柏村 淳、経営企画部長 福井 昌雄、市民協働部次長 石井 聡、福祉部長 須藤 典久
- 陪席者：経営企画部次長 福本 修司、広聴広報係長 西 久美子、広聴広報係主事 蛭間 幸実
- 配布資料
 - ・令和2年 逗子市長年頭記者会見（要旨）
 - ・逗子市プレスリリース「スペインまつりを初開催します」
チラシ スペインまつり

■内容

【経営企画部次長】

記者の皆様、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

これより年頭の逗子市長記者会見を始めます。

はじめに市長から発言させていただきます。よろしく願いいたします。

【市長】

皆様、明けましておめでとうございます。

○情報システムトラブルと復旧の件

昨年、情報システムのトラブルが発生いたしました。50市ほどの中で逗子市は軽微だと思われ、12月26日に完全復旧をしました。後期高齢者医療保険等に関して、市民の皆様にご不便をお掛けしました。

○市長としての2年目

行政経験がない中で市長職を拝命いたしました。各方面、市民の皆様等の支援をいただき、1年目はやってまいりました。2年目は勝負の年だと考えております。一昨年の選挙時から財政の再建には時間を要するが、方向性は2年間に示したいと訴えてまいりました。2年目が今スタートし、結果をどう出していくか考えています。

昨年同様に「現場第一主義」で進めてまいります。これは私の変わらぬ方針で引き続きやってまいります。市民の声を丁寧に聞くことも進めてまいります。これは多くの市民が安心して暮らしていけるまちを目指す中で、それに照らして市民の皆様の声をお聞

きするということです。

○逗子市の目指すべき方針「女性が活躍できるまち」

今後逗子市がどのような方向を目指すかについては、「女性が活躍できるまち」を掲げております。全ての機軸をここに据えながら進めていき、財政の再建と教育環境の改善・充実が車の両輪と考えます。具体的には、海あり山あり、子育て環境は大変有利ですが、一方で子育ての目途がついた方々が働こうとすると逗子には企業がないため、仕事を見つけることが難しい環境にあります。優秀な女性がたくさんおられる中、能力を活かせる環境を作っていきたいということが骨子であり、逗子に住みながら働けるまちにしたいという考えです。そのためには企業誘致も必要ですし、起業支援も進めてまいります。保育や学童も充実していない限りは移住等を含めた逗子市への呼び込みが実現できないと考えます。

○目指すべき逗子市のゴールに向けた5つの方針

政策に掲げてきた5つの目標があります。

① 企業誘致と起業促進で財政的に自走できる自治体へと財政構造を転換する

企業誘致と起業促進により、財政的に自走できる自治体へと財政の構造転換を図るということであり、昨年10月25日にplatform ZUSHI BIZを立ち上げ、民間の協力を得て構造転換を図るということです。逗子市を利用、活用しながら実証実験をする考えのある企業に門戸を開放したところ。地域電力の地産地消を目指したいということで、環境省の補助金をいただいて準備をしております。今年の4月もしくは6月までには企業を立ち上げるということで成功に向かってほしいと思っています。契約した個人が支払う電気代の1%は逗子の福祉等に協力するという制度を設けながら展開したいということで、市としてもサポートしていきたいと考えています。その他、医療データの活用にはさまざまな課題があります。国民健康保険の情報を出す場合でも、個人情報保護法との関係等、国と連携しながら進めていかなければいけません。市としては準備をしていきたいと考えています。ワーケーションの勉強会も実施しました。和歌山や軽井沢が既に動き出しておりますが、首都圏から1時間という距離で海や山がある逗子が、これからの働き方改革のサテライトオフィスやリモートワーク等の実証実験の場として迎えられていると感じます。

昨年12月5日、電子感謝券を始めました。全国で31番目だったでしょうか。市内の商店等77店舗に加盟いただいております。ポイントがスマホに振り込まれ、市内の店舗で利用できる仕組みです。これを活用しながら逗子ならではの目指します。去年は年間で7,658万円、一昨年は6,996万円でしたが、昨年12月のふるさと納税の寄付額が単月で7,144万円でした。うち電子感謝券は340万円でした。かつて私も商工会におり、ふるさと納税の立ち上げから関わってきた、思い入れのある制度です。政策上、赤字を最低でもイーブン

にしたい、できればプラスにしたいと考えておりましたが、各方面さまざまなご協力をいただき結果が出たと思います。今後、細かな分析をしながらさらに安定したものに変えていき、また、商品での返礼以外にも電子感謝券が出来たことで、ダブルの魅力で強くしていきたいと考えています。

企業版ふるさと納税については、当初本社移転を仕掛けると申しておりましたその考えに変わりはありませんが、本社を逗子市に移転するにはそれなりの条件が整わなければ難しいので、企業版ふるさと納税により逗子にゆかりのある方々が逗子を応援したいという場合、十分に代替できる制度だと考え、強力に押し進めていきたいと考えます。

②子育てしやすいまちづくり

子育てしやすいまちづくりは女性が活躍できるまちにするための大変重要な要素です。保育所も整備されない限り働きやすいまちにはならないと考え、保育所の緊急整備や放課後児童クラブの拡充も進めていかなければなりません。保育士不足により待機児童がでることを懸念しておりますが、果敢に挑戦していかなければならないところです。

③高齢者や障がいのある方が安心して暮らせるまちづくり

昨年からはスタートしている元気な高齢者を増やそうプロジェクトは全庁挙げて取り組みをしております。高齢者の健康、行政の医療費の抑制、両者がWin-Winになると考えます。今までは福祉部が中心となって準備をしましたが、福祉部のみが行う事業ではないということが私の考えです。例えば、経済観光課、文化スポーツ課といったところもいかにして市民の健康を訴えていくか、例えば商店街を歩いてきた方にはポイントを差し上げる等、まちを挙げて外にでる、歩くことに積極的に参加してもらえる環境を作りたいという考えです。

介護人材が不足している現状があります。ゆくゆくは就労奨励金の支給を検討しなければならないかもしれません。中学生等に介護の問題を身近に感じていただくための機会を提供するための準備をしなければならないと考えます。

自動車運転免許を返上した後、生活の足がないという方々のため、分譲地で実証実験を始める準備をしています。市民の方々と行政の連携が大事であり、実証実験を見守りつつ、有効に活用したいと思います。

④大規模な自然災害への備えと危機管理

避難施設は今現在45か所ありますが、さらに市内の施設、民間も活用しながら増設を進めたいと考えております。災害対策としましては、今現在4校にあるマンホールトイレをさらに整備し充実させ、一方では避難所への液体ミルクの備蓄も開始したいと考えています。

防災行政無線のデジタル化の工事について、今年度は基本設計、令和2年度より3か年

で工事をする準備をしております。デジタル化により災害時に全市民に聞きやすい音声が届くかという点、そうではありません。昨年台風15号、19号の際に感じたように、いかにして住民に的確な情報が届けられるか、アナログになりますが広報車等の活用もしながら準備をしていきます。

⑤魅力あふれるまちづくり

JR東逗子駅前の活用については、道路に面した側の民間の地権者との協議を進めている最中です。東逗子に必要な施設は何かという絞り込みを進めていきたいと考えております。地権者のご意向と市の意向をいかにすり合わせるかということが第一になってきます。当初はこの3月までに方向性をお示するという発表をしておりましたが、地権者との関係から若干ずれていきます。

昨年空き家バンクを創設しましたが、私が思うまでの活性化がなされていないと感じています。打つ手はまだあると考えておまして、今年はさらに実りあるものにしていきたいと考えます。

スペインのセーリングチームのホストタウンとして昨年も活動しましたが、今年は本番に向けサポートをしながら、市民の盛り上げを図っていきたくと考えます。パブリックビューイング等を設置したいと考えていますので、確定しましたらご案内をさせていただきます。

文化活動の振興という観点では、ずしアートフェスティバル2020が3年に1度のトリエンナーレとしての開催でして、市民とのコラボで盛り上げたいと考えます。市としてもサポート、協力できる関係で進めていきたくと考えます。

スペインまつりを初開催いたします。プレスリリースのとおり2月8日に予定しています。この機会に、市民にスペインとの友好を図っていただきたい、それによりオリンピックをさらに盛り上げたいと企画したものです。

○その他

総合的病院の誘致については、私の想像では恐らく本年に何らかの動きがあるであろうと考えております。どういう方向に進むか、その方向を見極めながらしっかり判断をしたいと考えていますが、何よりも公募条件に沿った市民が望む病院を求めていくという基本の考えは変わらぬことで、維持していきたくと考えております。

ごみ処理の広域化については、鎌倉市、葉山町との連携、特に葉山町とは4月に容器包装プラスチックの受け入れを開始するところまでまいりました。昨年、二市一町で発表しましたが、今後、鎌倉市が廃炉になった後、逗子市が焼却限度の範囲内で鎌倉市のごみを受け入れるということも表明しております。

逗子市が横須賀市から分離独立して70年という節目の年を迎えます。7月に記念イベントを実施する予定で準備しております。当時を知る方がご高齢になりました。ご健在であ

る間に過去を振り返ることをしていきたいと思います。

以上で私からの発表は終わります。

ご質問がございましたらお願いいたします。

記者) 情報システム障害について、逗子市の被害が 50 ほどの自治体の中では軽微だったとのことですが、どういう被害を被ったのでしょうか。

市長) 後期高齢者医療保険については入力ができませんでした。

福祉部長) 12 月 26 日に全面復旧しましたが、それまでは一切システムが動かない状態でした。市民の方からの問い合わせはあまり多くなく、10 件前後でしたので、その方達には復旧した後にご連絡しますということと、12 月 26 日から 27 日にかけて今こういう状態だということをも市民の方に情報提供したのですが、復旧と重なり、連絡が来た時には今日で復旧しましたという説明をしました。

記者) 10 件前後の問い合わせの内容はどのようなものですか。

福祉部長) 転入転出の異動や死亡をされたとか、口座の手続きです。

記者) 届け出をしたいのですがという問い合わせがあった件数が 10 件ということですか。

福祉部長) そうです。正確にはまた後程お答えします。

記者) システムのトラブルで市民にとっての影響の件数が 10 件前後ということですか。

福祉部長) そうです。2,700 から 2,800 件ほど口座から引き落とせないという状況になりかけたのですが、なんとか銀行にデータを提出し、引き落とすことができ、問題はありませんでした。1 ヶ月近くシステムが稼働しませんでした。結論から言うとあまり問題はありませんでした。

記者) 何か発行できなかったことについては。

福祉部長) 確定申告をするための証明書、いくら収めたかという証明書が発行できなかった。その方達に対しては、26 日に送付するという対応を取りました。

記者) 今回のトラブルで被ったものというと、後期高齢者の医療保険の中の何に影響があ

ったのですか。何の発行ができなかったのでしょうか。

福祉部長) 年間いくら収めたかという証明書です。

記者) 障がい者の関係など他にありますか。

福祉部長) 障がい者の関係は当日一旦ダウンしましたが、すぐに復旧したので問題ありませんでした。介護保険は認定審査会のシステムがダウンしてしまったので、週に 2 回認定審査会があるのですが、1 回出来ない回があって、後は手入力で帳票を打ち出してなんとか審査会を開催したという状況でした。

記者) 介護の認定審査会のシステムが動かなくなって、復旧は 26 日ですか。

福祉部長) 同じ日ではなかったなので、もう少し早かったかもしれません。

記者) 後期高齢者医療保険と障がい者のシステムと介護認定審査会が影響を受けたということですね。

福祉部長) そのとおりです。

経営企画部長) 一時的な影響という意味では他に家屋評価のシステム、あと職員が使う内部的な情報システムです。

記者) 市民向けには前半の 4 つですね。

経営企画部長) そうです。

記者) その 4 つ全部含めて 10 件前後の問い合わせで済んだということですか。

経営企画部長) 後期高齢者だけで 10 件前後です。

副市長) 家屋については一切被害はなかったと聞いています。先程の後期高齢者の証明書については、保険料控除証明書です。保険料を納めると年末調整か確定申告で控除を受けられます。生命保険の場合と同じように、後期高齢についても保険料を年間いくら払ったかという証明書を発行しますが、それができなかったということです。

記者) 逗子市として企業側に賠償を求めるとか考えていますか。

市長) 今現在は具体的にどうという方針は持っていませんが、今後導入していた約 50 の行政がありますので、動向を見ながら進めてまいりたいと思います。

記者) 企業側から原因の説明はありましたか。

市長) ありました。バックアップしているサーバーが、通常はクラウドでやっていて常にバックアップしているはずがそこが機能せず、予備も含めた両方がダウンしたということにより今回のトラブルになったと聞いております。

記者) 機能しなくなった原因は。

市長) 分からないです。よその行政ではまだ障害があるところがあります。そういう意味では逗子は年内で回復したということは、全体の中では軽微だったと思います。

記者) ふるさと納税について、12 月の寄付額が約 7,000 万円ということで、これまでの年間の額に相当するということですが、12 月だけでこれだけの額が集まった背景など分析されていますか。

市長) まだ分析まではいっていません。12 月単月のこれまでの数字は初年度、平成 28 年は 3,210 万円でした。29 年度が 2,480 万円、30 年度が 2,657 万円でした。2 千万円台だったものが 7,144 万円ということですから、3 倍近くになりました。制度が変更になって葉山牛がダメと言われました。商品をどんどん取り下げて総務省が考える地産地消というものに逗子市は積極的に応援、協力をしていました。2 月に総務大臣と官房長官にお会いした時に、逗子において葉山牛はまさに地産の一つですと言うと、それは大丈夫ですよというお話をいただき葉山牛が復活されたり、見直しをかけてきた、それが年末が最大のピークですのでどういう風に結びついてくれたのか分析したいのですが、こういう結果になりました。今から中身を分析しながらどういうお店がどういう方法で PR したか、それ以前に経済観光課が観光協会と一緒にあちこちのイベントに出かけて逗子を PR していました。そういうことが年末に功を奏したのか、深く掘り下げて調べてみたいと思っています。私はこれはまちを元気にしていく大きな活力の一つだと思っています。各商店が自分で営業をしなくても行政が全国にアピールしてくれてそのお店の商品が全国に飛んでいく、このシステムはふるさと納税そのものの中で商店を元気にしていく大変大きなツールだと考えておりまして、そこには今後も力を入れていきたいと思っています。

記者) いま一度、市長の2年目の意気込みをお聞かせください。

市長) 一年目は右も左も分からない中、まずは現場を見ながらやっていくということで来ました。二年目は待ったなし、方向性に対しては責任を持って結果を出していかなければなりません。しかし、大変手ごたえを感じています。昨年の platform ZUHI BIZ、ふるさと納税、企業版ふるさと納税といったさまざまなものが手ごたえとして感じるようになりました。platform ZUHI BIZ は民間の企業の方々が逗子に大変大きい期待をしている、魅力を感じていただいていると肌身で感じました。ですので、行政だけではできない部分をいかにして民間の力をお借りしながらまちを動かしていくかというところをさらに今年は進めていきたいと考えております。

記者) 財政的に安定して安心して暮らせるまちについてお願いします。

市長) 今現在は財政対策期間でありまして、かなり支出を絞った状態です。予測ではあります今年度も一定の財政調整基金は積み増しできるものと考えております。何よりも市民の方々には安定してきたということをご理解いただいて、だから元に戻れば良いということではなく、これを機会に戻すべきものと見直しをしていくべきものをしっかりと判断をしていきたいと考えております。不安だらけのまだだめか、まだそんな財政になっているのかということでは安心して暮らせるまちにはならないと考えておりまして、2年間の財政対策期間でそれなりの成果に近いものは見えてきたので、さらにもう一歩安定できるまちにすることが今後私に課せられた課題だと感じています。

記者) ふるさと納税ですが、去年の年間の累計はおいくらぐらいですか。

市長) 去年は7,658万円でした。29年度は6,996万8,000円です。

記者) 最終いくらぐらいになれば良いと思いますか。

市長) 3億円です。1億5,000万円流出していて、3億円の半分が経費ですから。3億円をいかに目指すかです。去年の例で言うと1億2,000万円近くが逆ザヤになっています。市内の商業の活性と行政的にも流出を止めるということは効果があると考えています。

記者) 去年の4月から12月までの積み上げはどれくらいですか。

市長) 6,800万円ぐらいでした。

記者) 昨年の12月だけだとどれくらいですか。

市長) 2,657万円です。

記者) 今年度の4月から12月までの積み上げはどれくらいですか。

市長) 1億1,968万8,000円です。

記者) 1億円超えたのは初めてですか。

市長) 初めてです。

記者) platform ZUSHI BIZ でいま参加されている方はどれくらいいらっしゃるのでしょうか。

市長) 45社くらいになりましたか。当初30数社でスタートして途中からご参加いただいた企業含めて45社前後と記憶しております。

経営企画部次長) 団体数で言いますと52です。個人の数ですと79です。

記者) 近々どれくらいまで増やしたいですか。

市長) 数を集めればよいということではなくて、どれだけ実効性のあるようにご協力いただけるかというだと思います。何よりも逗子の市内に企業が出てきてくれる、働く場が増えてくるということが最終目的ですので、企業数は100社くらいあってどんどん活性化していければ一番だと思いますが、数を求めるというよりも成功事例を早く一つ二つ三つと重ねていきたいと考えています。小さくても良いので動き出していくことが元気のもとになります。ふるさと納税が12月にこれだけの数字が出たのは私にとって力強い援軍でして、やった結果が何か現れてくるともっとやろうということになりますが、やってもやってもだめだとだんだんマインドが下向きになりますね。そうならないように小さな成功を、最初のうちはいきなりホームランではなく、ヒットを積み重ねて満塁にしたところで長打が出るとまちが元気になると思っております、まずは小さな成功だと思っています。

記者) 免許を返納された方向けの実証実験の話がありました。具体的にはどのようなことをするのですか。

市長) アーデンヒルの自治会からの要望もあって、デマンドタクシーを週に何日か走らせるという企画を練っています。これは行政がお膳立てして使ってくださいと言っても利用がないと思いますので、住民の方々がこういうものが欲しいというものを前提に企画をしていく、そこに実証の間は行政としてサポートします。いつまでも行政がこの財政状況の中でサポートはできませんので、いずれ自立するということを目指したいです。逗子の中には非常にうまくいっている例があります。ハイランドですが、老人ホームの清寿苑の送迎バスを日中空いている間だけ運行していただいています。ハイランドの中にはスーパー西友さんがありますので、来るときは歩いて来てください、荷物を持ったら清寿苑のバスが停まっていてご自宅までお送りするというように、非常にうまくいっています。これは全国から視察がハイランドに来ているようですが、これの第二、第三版を他の地区でできないか検討に入っています。

記者) 先程のタクシーは来年度ですか。

市長) 来年度です。

記者) 来年度の実証実験を目指すということですね。

市長) はい。来年度の前半を考えています。

記者) タクシーの事業者は。

市長) 菊池タクシーさんが応援をしてくれているのでそこと詰めているようです。少し遠いところで足がないと買い物にも出なくなる、運動もしなくなる、さまざまなマイナスの要素が大きくなりますので、なんとか外にでる仕組み、これを元気な高齢者を増やそうプロジェクトと連動していきたいと思っています。

経営企画部長) 実証実験の事業者について、仕組みを作る中では菊池タクシーさんと話をしているということですが、実際に事業をする時には選ぶのか、タクシー協会に全体をお任せするかこれから構築をしていくと聞いております。実証実験を誰がやるかも固まっていません。二点間でA点からB点へまたはB点からA点へという時刻表がある乗合タクシーのようなイメージです。予約があったときには走りますが予約がなかったときは走らない、そして個人の方からも利用者負担をいただくと先日は伺いました。詳細についてはまだ仕組みを構築中です。

記者) 節目の時は行政から発表があるのでしょうか。

市長) そうです。

せっかくですのでスペインまつりの説明をさせてください。

市民協働部次長) 一昨年からスペインセーリングチームがリヴィエラ逗子マリーナで事前キャンプを行っておりまして、それを機会に昨年スペインのホストタウンになりました。スペインを応援するという事で、セーリングだけではなくスペインの文化も知るためのさまざまな市民企画、例えばワインを楽しむ講座ですとか子ども食堂でスペイン料理を出していただいたりしました。今回のスペインまつりでは昨年のオリンピックセーリングチームとの交流会にも参加していただいた応援団というボランティアの皆さんがいらっしゃいますが、スペインを好きな方が集まっていますので、そういった方々が中心となって企画をしました。スペイン旅行の講演ですとかフラメンコをしている方についで、さまざまなフラメンコのチームに交流センターのフェスティバルパーク、屋外のステージで踊っていただき、また、見ていただくところでも飲食ができるという、寒い季節ではありますが賑やかなイベントを考えております。

市長) 世界中で一番人気がある旅行先はスペインなので、ぜひこれを機会に身近なものに感じてもらえたらと思っています。

経営企画部長) 電子感謝券ですが、開始当時は 31 番目でした。現状ではふるさとチョイスのページでは 40 団体を超えているようです。

市長) 絶対に動き出す図式まで行けると考えていますので楽しみにしています。

【経営企画部次長】

以上をもちまして記者会見を終了します。